

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.58 秋号

おかげさまで15周年！



第1回推進員研修会を行いました（関連記事p.7）



オーストリア、グラーツ市の木造公団住宅
「パッシブ基準」の高い断熱性能を実現（関連記事p.4,5）



けいはんなエネルギー教室を実施（関連記事p.7）

contents

- 2-3 特集
京都府地球温暖化防止活動
推進センター15周年
- 4-5 スタッフの欧州温暖化対策探訪記
- 6 第8期 地球温暖化防止活動推進員
府内各地で活躍中！
- 7 【活動レポート】
第1回 推進員研修会「パリ協定後の新しい
温暖化防止 出前授業」を実施しました
商業施設で再エネ体験展示を行いました
けいはんなエネルギー教室を実施しました
- お知らせ
サクラ調査・カエデ調査について
- 8 今年の12月は、再配達を減らしませんか？
宅配便再配達削減キャンペーン



京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。



京都府地球温暖化防止活動推進センター15周年

パリ協定時代の温暖化防止活動推進センターへ

浅岡美恵（特定非営利法人京都地球温暖化防止府民会議副理事長 弁護士）

センター・推進員制度の発

温暖化防止活動推進センターの開設は、1997年12月に、気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）で京都議定書が採択されたことに遡ります。議定書採択の1年後に成立した地球温暖化対策推進法に、都道府県に一つ（その後、政令指定都市にも拡大されました）、温暖化防止活動推進センターを設置できると盛り込まれ、地球温暖化防止活動推進員の委嘱制度とあわせて、地域での効果的な対策の推進を担うことになりました。

京都では、COP3に向けて連携したNGOが京都地球温暖化防止府民会議を立ち上げ、2003年からセンターの活動を開始しました。行政のサポートのもと、市民主体による推進体制がとられたことは画期的なことでした。地域協議会も制度化され、センターが自治体と推進員の連携役となり、国内有数の実績をあげてきました。

危険な気候変動の 足音&背中を押す動き

議定書が採択されセンターが発足した当時、自然を愛する注意深い人々は、気候の変化に気づき、推進員となって、CO₂などの温室効果ガスの排出削減や、電気製品の買い替

えのタイミングを活用してエネルギー効率の良い電気製品に変えることで温暖化対策となることなどを、わかりやすく伝えてきました。電気機器の効率ラベルの提案は、京都発の特筆すべき活動の第一弾でした。

とはいえ、センター設立の頃は、地球温暖化/気候変動は「深刻で重大だけれども、私たち自身にも、まだ先のこと」との空気ではなかったでしょうか。10年余の間に、極端な豪雨や高潮災害、40℃にも及ぶ連日の暑さによる熱中症などで、現代世代の私たちも、生命・健康が危ぶまれるまでになり、誰もが気候の異変に気付くほどになりました。2015年にパリ協定が採択された背景にも、削減は待たなしたとなったことがあります。他方で、議定書の採択以来、私たちの努力もあって、LEDや太陽光発電などのコストが下がり、省エネ住宅や自動車の燃費改善や電気自動車の流れも日々、前進しています。生活を改善しながら排出削減ができ、地域のエネルギー創出による地域での経済循環や雇用を生み出すことが夢ではなくなりましたし、今では、「電気を選ぶ」時代になりました。

パリ協定時代の センターの新たな役割

こうして誕生したパリ協定は、今

後、数十年の間に、世界の国や誰もが化石燃料から脱却し、自然エネルギーへの大転換を実現していくために辿るべき経路の案内役だといえます。課題は、気候変動の影響は産業革命以来のCO₂の総排出量に比例するため、人類全体に残された時間は、もう多くないということです。日本で見れば、CO₂の排出量の65%は発電所や高炉製鉄所、セメント・化学工場など大規模排出によるものです。これらの対策は、今後、キャップ&トレード型排出量取引や炭素税といった炭素の価格付け政策に委ねられることとなりますが、家庭やオフィス、自家用車の利用など、一つひとつは小さくても、多くの人々の行動が求められ、地域主導の自然エネルギーの活用など、地域で取り組むことの重要性も改めて問われています。2015年に、市民がオランダの削減目標引き上げを求めた裁判で、ハーグ地裁は、オランダの排出量は世界の0.5%に過ぎないので影響は小さいとの主張を退けるにあたり、「どんな小さな排出であろうとも、大気中のCO₂の増加、危険な気候変動に寄与することは確立された知見」と判示しました。府市民の理解を深め、府市民一人ひとりに情報や削減の知恵を届け、行動に繋げていく活動を担うのは、まさにセンターと推進員といえます。さらに工夫と実践が問われています。

これまでの主な取組

● 家電の省エネラベリング制度（2003年度～）

店頭で表示されていて、一目で省エネ性能がわかる緑のラベル。
もともとは京都をはじめ一部の地域で始まり、センターのネットワークで全国に拡大、それが国の制度となりました。



京都で実施した時のラベル



現在のラベル

● 夏休み省エネチャレンジ（2003年度～現在）

今年で16年目。夏休みに一週間、家族で省エネにチャレンジします。
昨年度は19,701世帯、140校もの参加がありました。京都府委託事業。
（省エネチャレンジの参加効果についてはうおーみんぐ 57号 4ページを参照）



● きょうとECO-1グランプリ（2007～2009年度）

環境省「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」京都大会として実施。
商店街の自作LEDランプでCO₂削減の取組や、地元の木を使った高校生の取組、電力の見える化で中小企業の省エネ支援など、現在の府内の活動につながる取組が生まれました。



● フード・マイレージ、地産旬食の取組（2011～現在）

日本は多くの食材（飼料含む）を輸入に頼っています。
KGPN等と連携し、京都の食材を学校給食や社員食堂等で食べるという取組を行いました。使用済みてんぷら油をバイオディーゼル燃料にして、農機具や学校給食配送車を動かす取組も実施。社員食堂や学校給食での取組は、現在も続いています。



● ウッドマイレージの取組（2005～2018年度）

京都府内で生産された木材であること、輸送時に排出された二酸化炭素量（ウッドマイレージ CO₂）の数値を示すことで、地域材利用による地球温暖化対策を進める制度を京都府と連携してたちあげました。
2018年6月からは、(一社)京都府木材組合連合会に認証業務を引き継いでいます。



● 京都再エネコンシェルジュ（2017年度～現在）

府の定めた研修を受け、新築や増改築の時に、それぞれのご家庭にぴったりの再エネ設備を提案する人（工務店や業者の方）＝京都再エネコンシェルジュの活動支援をしています。京都府委託事業。
ウェブサイト「京都再エネポータル」には京都の再エネ情報が満載！ぜひ一度ご覧ください。



認定証授与式

スタッフの欧州温暖化対策探訪記



再エネ大国、オーストリア

この夏に、気候変動対策の調査のためにオーストリアに行ってきました。オーストラリアではありません。カンガルーやコアラのいない方です。面積は北海道とほぼ同じ約840km²。ここに北海道の1.5倍の875万人が住んでいます。

オーストリアと聞いて、何をイメージされますか。首都ウィーンの町並み、クラシック音楽、それともチョコレートケーキでしょうか。もちろんこれらも特徴的ですが、オーストリアは地球温暖化の面でも極めて先進的な国なのです。

電力における再生可能エネルギーの割合は、オーストリアですでに約8割に達しています。日本の目標は2030年に22~24%ですから、その差は歴然。環境先進国として知られるドイツやデンマークよりもその割合は高く、世界トップクラスです。

自然の恵みを最大限に活かす取組

これを支えるのが、アルプスを水源とする豊富

な水量を活用した水力発電です。近年でも水力発電の増設は続いており、電力の約60%を水力発電で賄っています。風力発電や木質バイオマス発電も増加しており、水力発電以外の再エネだけで約20%の電力を生み出しています。

豊富な森林資源を活かした地域熱供給もどんどん拡充されています。オーストリアの山は急峻で、日本よりも地形に恵まれているようにはとても見えません。しかし、林業が重要な産業として成り立っています。そして、木材加工で出される端材等を熱利用に回すことで、余すこと無く山の恵みが活用されています。

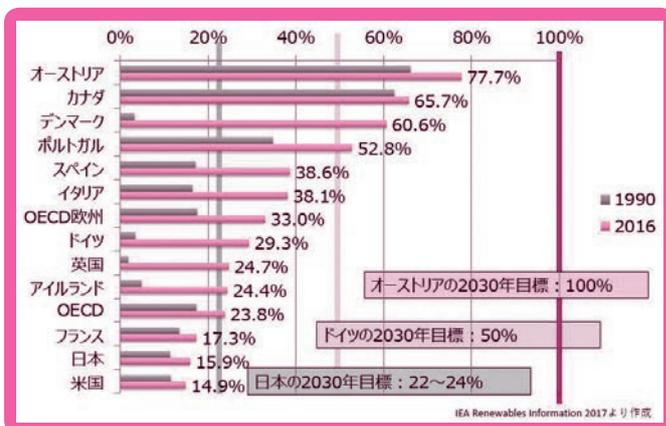
人の知恵を最大限に活かす仕組みと組織

紙面の制約上、詳しくはご紹介できませんが、オーストリアでは、「e5」（イーファイブ）、「気候エネルギーモデル地域」など、小さな自治体の温暖化対策を支える仕組みがあり、そこでは、取組を伴走支援する組織や人材が重視されています。

根底にあるのは、「地域の暮らしを豊かにすること。気候変動防止のためだけにエネルギー自立を目指すのではなく、これを「手段」として、いかに地域を元気にするかが模索されています。

右のページでは、そんな取組を行う村のひとつをご紹介します。

文・写真／木原浩貴



電力に占める再エネの割合



ウィーンの水力発電



風力発電

アイゼンカッペル・フェラッハ村の取組

最南端の小さな村

アイゼンカッペル・フェラッハ村は、ケルンテン州にあるオーストリア最南端の村です。人口は2400人。多くのスロベニア系住民が暮らします。高速道路や鉄道網からも離れた交通の不便な場所です。過去には、村にあった製紙工場が閉鎖されるなどして人口が減少し、高齢化が進み、税収も減るといふ循環に悩まされてきました。

こんな小さな村が、ヨーロッパ・エナジー・アワード(※)で、トップ10にランクインしています。

(※ヨーロッパにおける温暖化対策に取り組む自治体の評価・マネジメントシステム)。

取組の内容

地域熱供給網の整備

2001年から熱心な住民(ちょっと変わり者!?)の働きかけで地域熱供給網の整備を開始。90%の建物がこれに接続し、木質チップで作られたお湯で暖房と給湯ができます。各戸でボイラーを使っていたころに比べて村の空気がきれいになり、観光産業の競争力アップにもつながっています。

学校センターや保育園の整備

既存の学校を大規模に断熱改修し、村の小学校・中学校・音楽学校を統合した学校センターを整備。空いた小学校は、これもリフォームしてバリアフリーの高齢者住宅として活用しています。保育園も最高の断熱基準でリフォーム中です。

村営住宅のリフォーム

村営住宅が老朽化し「バルコニーが落下するかもしれない」という危機に、これを切除するのではなく補強して2倍の面積にし、断熱リフォームを行って快適にすることを選択。屋根を市民出資太陽光発電のために貸し出し、賃料をリフォーム費用に充てています。低価格で住みよい住宅を整備することは、所得が多くない若者が村に留まるためにも重要な役割を果たしています。

その他

数多くの取組を、住民参加のもとで次々と生み出しています。

- 遠くへ車で通勤しなくてよいよう「1人起業」を支援
- 電動アシスト自転車を整備して観光の足として活用
- 役場の電気自動車を住民ともシェアして車を所有しない生活をサポート
- 街灯をLEDにして電気代を劇的に削減、9ヶ所の小水力発電を整備

「前に逃げる」取組で、暮らしの質を確保

副村長のガブリエル・フリーバーさんの言葉で最も印象的だったのは「前に向かって逃げる」という言葉。ピンチに直面したときに、これを変革のチャンスと捉えて歩みを進めるその姿勢が、魅力的な村を生み出しています。

「エネルギー対策は、村が生き残っていくための対策」と語るフリーバーさんですが、当初から住民全員の理解があったわけではないのだとか。「村営住宅の改修を実施し、生活の質が劇的に改善して、少しだけ理解を得られたかな」と。

暮らしが豊かになる取組を住民が実感できる形で進める。ここに取組推進のポイントがありそうです。



アイゼンカッペル・フェラッハ村営住宅

第8期 地球温暖化防止活動推進員 府内各地で活躍中！

今回は、今年の5月から綾部市環境市民会議（エコねっとあやべ）の会長をされている福井圭介さんの活動についてご紹介します。



同僚だった先生に誘われて

綾部市で小学校の先生をされていた福井さん。同じく綾部で先生をしていた中村孝行さんに誘われ、綾部市環境市民会議に入会し、その後、推進員になりました。

「綾部市で先進的に環境教育に取り組んでいた物部小学校に転勤になったとき、校舎にグリーンカーテンを設置し始めました。校区に住んでいらっしゃる環境市民会議の会員さんに助けていただきながら、全長70メートルものカーテンを設置したんです。中筋小学校で勤務していたときは、3階の教室の窓付近までカーテンを伸ばしたこともあります」。そんな経験からコツをつかみ、ご自宅でも立派なグリーンカーテンを毎年設置されているそうです。

「温暖化防止ミニ授業+グリーンカーテン」

現在、市内16の幼稚園・小学校・中学校に毎年呼びかけをして、答えてくださった学校で温暖化防止ミニ授業とグリーンカーテン設置のお手伝いを実施されています。「それぞれの年齢に応じたネタでのミニ授業は楽しいですよ。中学生によく見せるのは、宇宙から見た夜の地球の写真。日本列島が灯りでくっきり浮かび上がっている様子を見てもらいます。センターの氷河やモミジの写真もよく使わせてもらっています。幼稚園児には葉っぱのクイズをしたり、ゴーヤの絵をパラパラ伸ばしながら生長の説明をしたり。推進員でうまいこと役割分担してミニ授業をしています」。これからも新しいネタを仕入れて、興味関心をひく授業にしたいですね、と

福井さん。もう一つエピソードを紹介してくださいました。「昨年、綾部中学校では、生徒会の方針としてグリーンカーテンに取り組みれたんです。生徒会が“58(ゴーヤ)のキセキ”というチラシを作成し、全生徒に設置を呼びかけ、50～60人ほど集まり、プランター60個ほど大量に設置をしました。設置の一週間ほど前に、私たちが生徒会のメンバーに地球温暖化の話とグリーンカーテンの効果の話をして行ったんです。こういう形で実施したのは初めてでしたね」。

綾部市環境市民会議（エコねっとあやべ）

81名の個人会員、14の団体会員で活動されている綾部市環境市民会議。入会金や会費は無料なので、気軽に参加できます。4つの部会と1つのプロジェクトで活動されています。ごみ減量を目標に活動する「生活部会」では生ゴミ減量や雑がみ再資源化の取組を、「花と緑の部会」では花壇やフラワーポットの設置などを通じて花と緑あふれるまちづくりを、「産業部会」では省エネと再エネ普及を、「啓発部会」では環境子ども作品コンクールやグリーンカーテンフォトコンテストなども実施されています。年2回発行されている情報誌『エコねっとあやべ』は、なんと、綾部市全戸に配布されています。

現在は、毎年恒例のコスモス祭（10/21）に向けて準備をされているとのこと。環境市民会議の活動はFacebookでも積極的に情報発信をされていますので、ぜひそちらもご確認ください！

エコねっとあやべ

検索 🔍



左：物部小学校の全長70メートルのグリーンカーテン
右：2016年のコスモス祭

■ 第1回 推進員研修会「パリ協定後の新しい温暖化防止 出前授業」を実施しました

今回の研修では、「パリ協定や温室効果ガス排出実質ゼロを、子どもたちにどう伝える?」ということも含めて、出前授業でのコツ・工夫・使える動画やアクティビティの紹介をしました。また、「未来の脱炭素の暮らしを自分の言葉で伝える」というテーマで推進員さん同士で話し合っていたところ、たいへん盛り上がりました。

後半では、出前授業でよく聞かれる質問についてや、「最近目にする、耳にする用語の説明」として、ZEH・SDGs・2019年問題・ESG投資などの用語をおさらいしました。

7月13日(金) 南部会場には70名、8月6日(月) 北部会場には27名の推進員さんにご参加いただきました。



熱心に話し合う推進員さん

■ 商業施設で再エネ体験展示を行いました

7月14日(土) イオンモール京都桂川店2階にて、京都再エネコンシェルジュのいる事業所とともに、再エネの普及啓発イベントを実施しました。

当日は、太陽光、水力などの再エネ体験展示のブースを設置。さらにRE100やネット・ゼロ・エネルギー・ハウスなどの最新情報を盛り込んだクイズラリーを行い、400名近い親子連れにご参加いただきました。



クイズラリーに取り組む親子



再エネを学習できる展示

■ けいはんなエネルギー教室を実施しました

夏休み期間中に、京都府と連携してけいはんなエネルギー教室を5日間・計10回実施し、377名の親子にご参加いただきました(7/31、8/1、8/2、8/22、8/23)。地球温暖化と再エネについての授業を受けたあとは、けいはんなe2未来まなびパークの展示をみんなで見学。その後、再エネ工作进行了。工作内容は実施日ごとに異なり、太陽光発電で動くぶるぶるおもちゃ・太陽熱を利用したソーラークッカー・風力発電などを作成しました。

「持ち帰った再エネ工作をさらにアレンジして飾りつけをしました」と後日ご連絡くださった参加者もいらっしゃいました。



温暖化と再エネの授業の様子

お知らせ

サクラ調査・カエデ調査について

今回で10回目を迎えるソメイヨシノの開花日・満開日調査は、今回も34人(50地点)の協力を得て実施することができました。ご協力いただき、ありがとうございます。2018年サクラ調査の結果は、次号うぉーみんぐに掲載予定です。

- 今年度より本調査は増田啓子龍谷大学名誉教授がされることになりました。2018年カエデ調査より、調査シートの提出先が変更となります。みなさまには引き続き調査にご協力いただきますよう、お願い致します。

今年の12月は、再配達を減らしませんか？

宅配便再配達削減キャンペーン



当センターでは、12月の温暖化防止月間にあわせて「宅配便再配達削減キャンペーン」を行います。それに先立ち、先日「再配達を減らそう・ワークショップ」を行ったところ、こんな体験談が出てきました。

「日中は職場にいますので、宅配はいつも必ず再配達。でも、宅配業者のお届け日時通知サービスに登録してからは、配達前に都合の良い日時に変更ができるようになり、再配達が激減した。」

「たまたま引越しをしたマンションに宅配ボックスが設置されていた。再配達はぐっと減ったし、帰宅してからすぐに取りに行けるので、とっても便利。」

「一方でこんな声も…」

「家族宛の荷物は、荷物が来るのを知っていないと、送り付け詐欺かもと怖い。女性だと、防犯の面からわざと再配達にする人もいるみたい。（※事前のお届け通知サービスで送り主が分かると安心できるかもしれませんね）」

「再配達も問題だと思うけれども、通販会社でアルバイトをしていた時に、返品が多くて大変だった。特にキャンペーンで購入された方は、気軽に受け取らずに戻ってくる。戻ってきてても箱や見栄えがあるので、そのまま商品にならず、送料も回収できず、泣き寝入りだった。」

最近では、宅配事業者のお届け日時通知サービス（事前に受け取り日時の変更ができる場合も）や、駅やスーパーなどの宅配ボックス（※）など、受け取り方法も増えてきました。

お歳暮、クリスマス、お正月と、宅配便が増える時期の12月。これを機会に、今までとは別の受け取り方法を試してみませんか？あなたのライフスタイルにピッタリの受け取り方法が見つかるかもしれません。

キャンペーンのパンフレットを作成予定です。
「私はこうして再配達を減らしました」という取り組み事例を、当センターまでぜひお知らせください。
職場受け取り（個人の荷物を勤務先で受け取る）についても試行実施を予定しています。

ご興味のある方は、当センターまでご連絡ください。



（※）宅配BOXの例

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うおーみんぐ」

（平成30年秋号 平成30年10月発行（年4回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
（特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議）
理事長：郡嶋 孝

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町41番3

TEL：075-803-1128 FAX：075-803-1130

URL：http://www.kcfca.or.jp E-mail：center@kcfca.or.jp

Facebook：https://www.facebook.com/kcfca

編集：木原浩貴 川手光春 浅井薫 三枝剛 河田理恵子 根岸哲生

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！

年度会費 正会員（個人）：2,000円 正会員（団体）：3,000円

準会員（個人）：2,000円 準会員（団体）：3,000円

賛助会員：10,000円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

